



文化系女子という生き方

「ポスト恋愛時代宣言」！

湯山玲子

文化系女子という生き方

「ポスト恋愛時代宣言」!

湯山玲子

湯山玲子 (ゆやま・れいこ)

著述家、日本大学藝術学部文芸学科非常勤講師。(有)ホウ 71 取締役。著書に『クラブカルチャー!』(毎日新聞社)、『女ひとり寿司』(幻冬舎文庫)、『女装する女』(新潮新書)、『四十路越え!』(角川文庫)、『ピッチの触り方』(飛鳥新社)、上野千鶴子との対談本『快樂上等! 3.11以降を生きる』(幻冬舎)、『ペルばら手帖』(マガジンハウス)など。

クラシック音楽イベント『爆クラ』、自ら寿司を握るパフォーマンス『美人寿司』主宰。さまざまな世代向けの女性誌に連載多数。

ぶん かけ いじよし い かた 文化系女子という生き方

れん あい じだい せんげん
「ポスト恋愛時代宣言」!

2014年5月1日 第1刷発行

著 者	ゆやま れいこ 湯山玲子
発行者	佐藤 靖
発行所	だい わ 大和書房 東京都文京区関口1-33-4 電話 03-3203-4511
ブックデザイン	平林奈緒美
写 真	加藤新作
校 正	小野春枝、木野陽子
カバー印刷	歩プロセス
本文印刷	信毎書籍印刷
製本所	ナショナル製本

©2014 Reiko Yuyama. Printed in Japan

ISBN978-4-479-39255-2

乱丁本・落丁本はお取り替えいたします。

<http://www.daiwashobo.co.jp>

JASRAC 出 1403756-401

文化系女子という生き方 「ポスト恋愛時代宣言」！ 目次

まえがき 001

第一章 文化系女子とは何か

歴史の中の文化系女子

文化とオンナは仲がいい 016

文化教養はゆとりあつての歌舞音曲 019

女のメシの種 022

輝ける歴史の中の文化系女子

才能をまっとうできた自立系 026

アーティスト同士の結婚で、女が喰われた場合 029

文化系と社会がリンクしていない

プロの女性の表現者は、もっといい 032

第二章

元祖としての少女文化

「子宮感覚」に気をつけろ 035

女性クリエイターには、胆力とコミュニケーション力が必要

優れた見手になる道もある 041

アートは制度に役立つと考えるヨーロッパ 044

038

「性がないことになっている」少女時代

文化系女子の系譜 050

スピードが引き下げた「女」の入り口 054

拡散し続ける日本の少女文化 057

腐女子、こじらせ系文化系女子

文化系女子を男たちはどう見ているか 062

女の体を乗りこなせない！「滅私」文化 065

そしてオタクは女のものになった 069

第三章

文化系女子以外はどこに行く？

マイルドヤンキーと文化系は両立できるか 073

現実の予測誤差を楽しむ「恋愛中毒、ビッチ」 075

文化系とは、つまりエロスであり暗部

少女のムラムラの行方 078

BLという絵空事の関係性萌え 082

文化系&肉食系バイリンガル個人史

著者の「文化系女子の生き方」

音楽一家に生まれ、カルチャー情報誌「ぴあ」に入社 088

専門はなに？ 090

読書・漫画体験

祖父母の代から流れる文化系DNA 094

父の仕事場で、多くの詩集と絵本に触れる 096

少女漫画とポプラ社シリーズとの出会い 097

子どもに文化コードを持ち込まなかった親 100

学級文庫に『カムイ外伝』。日教組教育の小学校 102

小六、仲間はずれをきっかけに裾野が広がった読書 104

カフカ『城』で知る内省型の自分 107

クラシックの家で、ポップとロックに目覚める

カッコいい音楽、ロックの波 110

深夜放送で遭遇したユーミン「COBALT HOUR」の衝撃 112

バンド活動でドラマの猛練習、クラブカルチャーに続く 115

演劇、映画、美術、デイスコ……

演劇のセンスはアウトでも、ぴあの演劇担当に 117

『007』シリーズから名画座巡り、カルト上映会まで 120

三〇代、一気に開眼し美術的ものの見方を体得 122

初化粧、初デイスコ。リア充訓練で得た女装効果 124

文化もリアルも別腹で、美味しい 126

第四章

黒文化系女子

文化を利用する輩 130

威張れるアクセサリ 131

SNSのコミュ名文化 135

佐村河内守的ブランディング 139

検索文化とSNSが開けたパンドラの箱 142

スピリチュアルの妄信にハマるヤツら 144

自然を好み、自由を嫌う黒い輩 149

第五章

文化系女子を待ち構える罠

紅一点問題

文化系男集団の中の“名誉男子” 154

文化系男集団との付き合いは外様で 159

自分がヘッドになればいい 161

紅一点女子は卒業させられる 164

感性で持ち上げられる罨

「面白い子がいるんだよ」に気をつけろ 167

男の財産を受け取るメリット・デメリット 171

第六章 文化系女子マツピング

ドレッカー&サンデル女子

ビジネス書多読、権威ある人に認められたい欲 174

優等生のアクセサリーが経済、哲学 177

アート大好き系女子

グローバル時代、現代美術が最も熱い 180

「いい作品は泣けるはず」はつまらない 182

自立の気概がある女性は、制度側に行った 185

日本酒女子

NPO 的立ち位置で社会参加 188

文化系がカネになる、クールジャパンの一大コンテンツ 190

バーキン女子

文化系女子の天国、フランス 193

キーワードは、飾り気のない天然 & 自然体 195

きやりーばみゅばみゅ女子 200

インモラル嗜好女子 204

政治参加社会派女子 208

文化系女子の方法論

「人生で何をするか」一生わからない疑問 214

知らない自分に出会う

「変化」に文化教養は生きる 219

ひとり暮らしは人生の劇的なジャンピングボード 222

海外という文化教養 224

教養資本は海外でも、ものを言う 227

カルチャーを怠るな

「好き嫌い」を知る、足を運ぶ、発表する 230

死ぬ瞬間まで答えは出ない 233

本を読むように、現実を読むというやり方 236

アウトプットの訓練 238

文化系女子はモテる

モテ努力はムダに終わった 242

ユニークな女は生涯安泰 248

現実と文化系の両立

文化教養は「癒し」でも「逃げ道」でもない 251

腐女子とリア充は両立できる 254

正しい文化系女子になる

現実に取り入れる文化教養とは 257

現場主義 260

ファッションで居心地をよくしろ

ひとりの時間の化学反応

266

264

あとがき

270

まえがき

とうとう、女性が恋愛から逃げ出し始めました。

相思相愛の相手との結婚を頂点とした、恋愛の理想王国はその広大な国土の中に「告^こられてつなぎで付き合っていたら恋心が芽生えた」とか、「相手好みの女になるように努力中」とか、「不倫だから燃える」というようなバリエーションを含みながら、女性の人生の中にどっかと存在し続けていましたが、草食化というネーミングが象徴するような男性側の大変化が、社会のあり方も含めて立て続けに起こったおかげで、多くの女性たちは、ある意味正気に返って、違う可能性を探し始めたのです。肉食化してまでも、恋愛王国に殉じようという愛国者たちもいますが、もはやその人口は減っています。

さて、彼女たちは、どこに行ったのか？ 移住先として今大人気なのが、文化系という惑星。「本^{ほん}当に、どの現場に行っても、女の人ばかりだよね」という声が聞こえるように、美術展、お芝居、映画館、古典芸能、オペラ、バレエ、アイドルのコンサート、読書会、お笑いライブ、

海外旅行、高級フランス料理などの文化的な現場は、女性でいっぱいです。

女性の観客が支えていた宝塚歌劇団、ジャニーズなどのご**蟲**（ひい）**肩**（か）エンターテインメントは、韓流をはじめとして、テニミュ（ミュージカル『テニスの王子様』）などの新機軸がいろいろ発生して、動員を誇っていますし、男性特有の現象だと思われていたオタクにしても、メヅカたる一大イベントのコミケ（コミックマーケット）は、出店者、入場者ともに、男性を超えてしまった、という事実が明らかになってきました。以前は、女性の姿がほとんどなかった日本酒、格闘技、思想哲学、政治経済といった男性の領分にも、女性の新規参入が目立っています。囲碁ガール、鉄子、釣りガールというブームも近年取り沙汰されましたよね。

人間の一生とそれに費やせるお金は、かぎられているので、このことは、どうやら女性の意識と欲望のあり方が変化したと言っているでしょう。これまでは、恋愛という概念を信じて、その成就に向けて、多くの時間とコストをかけていたのに、それが徒勞（たうらう）と思った瞬間に、もっと面白くて、裏切らない対象＝文化系がすぐ横にあったというわけです。女性の欲望を最もダイレクトに反映する女性雑誌の分野で、文化系を意識した新創刊やリニューアルが、この近年目立っています。恋愛やモテやキャリアといった、実生活充実のノウハウは、女性向けのメディアの鉄板でしたが、すでにそのあたりの欲望に変化が表れてきているのではないか。

そもそも、文化系は女性にとって、近い存在でした。外で激しく運動するよりも、家の中で本を読んだり、手芸をしたりすることが女らしいと褒められ、その一方で、自立や自活の道としても小説や絵画、そして踊りやお茶の先生というようなラインが文化系にはあったのです。本書は、その歴史と、もうひとつ、今や「カワイイ」という世界共通語にもなった美的センスを生み、少女漫画、ボーイズラブ、BLという高度な文化ジャンルを生んだ、子どもと女の間で「現実的に性がないことになっている」少女期について、言及しました。

また、著者自身の文化教養についても紹介しています。私は本書を、文化系女子とはどういうものなのかという客観的事実だけではなくて、タイトル通り「文化系女子という生き方」は、こういうようにすればいいことがありますよ！ というお節介な提言もしているので、そういうアンタは何なのさ！ という根拠の全てを明かしたつもりです。

文化系は今、一般的には実生活、特に恋愛や仕事がうまくいっていないし、そもそも興味が持てないという非リア充の必要十分条件としても認識されています。恋愛王国から逃げ出した女性たちの新たな「居場所」としての文化系ですね。学校、職場など共同体への所属が身分やアイデンティティーの保証になる日本人にとっての文化系は、自分から積極的に関係を求めていける意志的な共同体でもあります。もはや、それはSNS時代に、バーチャルな居場所としても機能しています。そのことに加えて、そもそも、女性の文化系アプローチにべったり張り

付いてくる、「育ちと頭がよく見える」権威アクセサリーとしての文化系については、批判的な立場を取っています。

ならば、どんな「文化系という生き方」を推奨しているかと言えば、それは、リア充と腐女子を両立させるというもの。こう述べる、多くの人が「リア充が嫌だから、腐女子なんだしさあ（あるいはその逆）」と考えるのでしょうか、そもそも、文化教養と現実や実人生は切り離さなければいけないのではなく、双方の代替え補完物でもありません。その両方を同時に走らせ、相互作用させると、人生は「深読み」できるし、他人の表現物も血が通った深い理解ができる、ということ、実感と体験をこめて、オススメモードにして綴ったつもりです。

3・11以降、都会に出て学歴競争社会に身を投じ、年収が一〇〇〇万になるまでは安心できず、仕事にほとんどの時間を取られるという生き方から、地元で年収は低くても時間がたっぷりあり、仲間もいて、生活を楽しむ方がいい、という生き方が見直されています。文化系女子は一見、都会的なイメージを受けるのですが、実はそういうライフスタイルにも非常にフィットする生き方なのです。なぜなら、それはインターネットがあり、田舎暮らしをしながら、レアな本も音楽も取り寄せることができ、ユーチューブはあるし、現場へは工夫すればずいぶん安く行ける交通手段も整っている。何より広いスペースと時間があるわけで、意思さえあれば、非常に豊かな文化教養生活を満喫できるのですから。

問題があるとすれば、昔よりも強固になっていそうな（マイルドヤンキーという新保守派も台頭しています）、周囲と同じようにしなければならない「同調圧力」でしょうか。文化系女子は基本、集団の中では「変わり者」なので、それを濃密な田舎の環境の中で通すことができるか、ですね。これは周囲から攻撃される、というのではなくて、周囲に合わせた方が自分にとってラクなので、ついつい努力と向上を必要とする文化系を手放してしまう、というパターン。都会よりも簡単に、その言い訳が成立してしまうのが、地元系ですから。しかし、田舎の人間関係をこなしながら、趣味の織物に打ち込み、その研究に年間で一ヶ月はインドネシアに行っているという六〇代の主婦も知り合いにいますし、京都の大原で素晴らしい庭造りを楽しむ、NHKの番組で一躍注目されるようになったベネシアさんというイギリス人女性の生き方は、現実的なイメージリーダーになるのではないのでしょうか。

なお、文化系女子を述べるに当たって、無視することはできない性、セックスという下部構造もきつちりと押さえました。家庭用ビデオの普及にエロビデオが大きく貢献したように、女性の文化教養を支えるエネルギーにも、当然エロスは存在します。特にネットという自分のプライベートを確保しながらエロにアクセスできる環境の変化は、「タブーだったからこそ、他に花開いた」という、少女文化からの伝統が存在する文化系女子のスタンダードに、今後どんな変化をもたらししていくのか、非常に興味があります。